

ひきこもりが 事件をもたらしたのか？

川崎市登戸で発生した痛ましい事件の犯人がひきこもり状態であったということが報じられ、ひきこもりに対する新たな偏見と誤解が広がり始めています。長年にわたりひきこもりの実態の解明と支援にあたってきた立場からすると到底納得できるものではありません。ここであらためてひきこもる人たちの心理を説明し、何が問題であるのかを考えてみたいと思います。



二神能基

ひきこもり支援
ニュースタート事務局主宰

不登校や引きこもりの若者を支援するニュースタート事務局を設立。著書「勝ち負けから降りる生き方」。



高塚雄介

明星大学名誉教授

(社)メンタルヘルス・ビューロー理事長。東京都・内閣府等の依頼でひきこもりの実態の解明にあたる



池上正樹

ジャーナリスト

『心と街を追うジャーナリスト』として、ひきこもり問題について20年近く取材を続けている。そのほか、東日本大震災や痴漢冤罪問題関連の執筆活動も行ってきた。著書「ひきこもる女性たち」

令和元年6月22日
14:30~17:00 (受付2時~)

先着
定員80名
どなたでも
参加できます

中央大学駿河台記念館610教室

東京都千代田区神田駿河台3-11-5

参加費：1,000円 (資料・会場費)

事前受付不要 当日参加OK